
魔法少女リリカルなのはStrikerS ~ 3人の最凶 ~

LEOPARD

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはStrikers ～3人の最凶～

【Nコード】

N2956BA

【作者名】

LEOPARD

【あらすじ】

己の願いを叶えるために戦い続ける戦士たちがいた。人はそれを「仮面ライダー」と呼んでいる。ある時、3人の仮面ライダーが鏡の世界に住む異形「ミラーモンスター」を相手に戦いを繰り広げていた。だがその時、彼らは小さな赤い宝石の放つ光に飲み込まれ、気が付くと見知らぬ世界に降り立っていた。そこは魔法文化が発展した世界。ミッドチルダだった。元の作者である月光丸さんの許可をもらい、自分がもう一人のオリライダーを加えたりメイク作品です。

プロローグ1 三人の仮面ライダー（前書き）

どうもはじめまして。LEOPARDと申します。

許可を取ったとはいえ初投稿なので、とてもドキドキしています。ちなみにタグにもあったように設定上ライダーは13人から15人に変更されています。

では魔法少女リリカルなのはStrikers（3人の最凶）、
始まります！

プロローグ1 三人の仮面ライダー

ここは日本のとある町。

この一見平凡とした町の裏では“仮面ライダー”たちによる己自身の望む願いを賭けた壮絶な戦いが繰り広げられていた。

これは鏡の世界・ミラーワールドにて戦いを続けている、3人の仮面ライダーによる物語である

???「全く、面倒な奴が現れたもんだ」

ミラーワールド内の廃ビルの中で1人、ミラーモンスターと戦っている戦士がいた。

サメのような意匠を持った水色の仮面の戦士、“仮面ライダーアビス”である。

アビスは今ミラーモンスターの一匹であるヤゴ型モンスター“シアゴースト”と戦っている最中だった。

アビス「まずはこれだな」

アビスはサメの紋章の入ったカードデッキから一枚のカードを抜き取り、左手に装備されている召喚機“アビスバイザー”に装填する。

《SWORD VENT》

アビスバイザーから音声が鳴ると同時にどこからか大剣アビスセイバーが飛来し、アビスの右手に収まる。

アビス「よし、いくか」

アビスセイバーを手に持ち、アビスはシアゴーストに向かって走り出す。

アビス「おらあっ!!」

アビスはアビスセイバーでシアゴーストを連続で切りつける。

シアゴーストも負けじと腕を振りかぶって襲い掛かるが、アビスはそれを難なく避けて、シアゴーストを蹴り飛ばす。

アビス「増えられると面倒だ、一気に決めるか」

アビスはカードデッキから別のカードを抜き取り、アビスバイザーに装填する。

《FINAL VENT》

音声が鳴り、アビスの後ろから彼の契約モンスターである“アビスラッシャー”と“アビスハンマー”の2体が出現する。

アビス「フッ！」

アビスは高くジャンプすると、アビスラッシャーとアビスハンマーの2体が空中のアビスに向けて高圧水流を纏わせ・・・

アビス「ハアアアアアアアアアッ！！！！」

もの凄いスピードで、水流を纏ったドロップキックを繰り出す。これがアビスの必殺技、“アビスダイブ”である。

動きの鈍いシアゴーストがこれを対処できるはずもなく、アビスダイブを受けて爆発した。

その後、炎の中からシアゴーストの魂が小さな光となって出現し、それをアビスラッシャーが吸収した。吸収し損ねたアビスハンマーは不機嫌そうに唸り声を上げていたが。

アビス「ふう・・・」

地面に着地したアビスが一息つく。

アビス「さて、戻るか」

現実世界に変えるべく、近くに鏡か窓ガラスがないか探す・・・

????「まだお帰りには早いんじゃないですか?」

アビス「!!」

どこからか誰かの声が聞こえ、アビスが声の下方向に振り返る。

すると階段からペンギンのような意匠を持った群青色仮面の戦士、“仮面ライダーコルド”が降りてきた。

アビス「お前・・・今まで隠れてやがったな。なんで今頃になって出てきた？」

コルド「いえ、あんな虫一匹いちい相手にするのも面倒でしてね。どうせならあなたに排除してもらおうと思っただけですよ」

アビス「てめえ・・・こつちだって面倒だったのに・・・」

コルドの台詞を聞いてアビスは不機嫌になるが・・・

シアゴースト「ウツヘウツヘウツヘ」

アビス・コルダ「ん?」

二人が振り返ると、その先にはシアゴーストが大量に出現していた。

コルド「排除してもらったつもりが、当てが外れたようですね」

アビス「ああもう、めんどくせえなあ!」

・ アビスが再びカードデッキからカードを抜き取るうとしたその時・

????「ここかあ、祭りの場所は・・・」

声のした方向にアビスとコルドが振り返る。

そこにはコブラの意匠を持った紫色の仮面の戦士、“仮面ライダー王蛇”がいた。

アビス「うわあ、また更にめんどくさいのが出てきやがったなあ」

コルド「あのまま隠れて様子を見ているべきでしたね」

アビスは嫌そうに呟き、コルドは自分のとった行動に後悔した。

王蛇もアビスとコルドがいることに気が付く。

王蛇「あ?・・・何だ、お前らも俺を楽しませてくれるのか?」

アビス「悪いが、お前のやることに付き合っ気はねえよ」

コルド「アナタみたいな奴と遊ぶと、かえって危なっかしいですからね」

アビスとコルドはそれぞれ返事を返す。

王蛇「はっ、連れない奴らだなあ……」

王蛇はそう言うと、コブラの紋章の入ったカードデッキからカードを抜き取り、どこからか取り出したコブラのような杖型の召喚機“ベノバイザー”に装填する。

《SWORD VENT》

音声が鳴り、王蛇の右手にベノサーベルが飛来する。王蛇はそれを左手に持ち替える。

王蛇「イライラするんだよ……」

王蛇は首の骨をゴキゴキと鳴らし、シアゴーストの大群に突っ込んでいく。

アビス「あゝ、本当にめんどくせっ!」

アビスもまたアビスセイバーを手に持ってシアゴーストの大群に突っ込んでいく。

コルド「私はこのまま黙って観戦……させてはくれないようですね」

シアゴースト「ウッへウッへウッへウッへ」

気がつけばコルドの周りにも何体かシアゴーストが迫っていた。

コルドはペンギンの紋章が入ったカードデッキからカードを抜き取り、今まで手にしていた大きな槍型の召喚機“スノウバイザー”に装填する。

《SWORD VENT》

音声が鳴ると、上空からペンギンの翼を模した2本の大剣スノウセイバーが飛来し、コルドの両手に収まる。

コルド「永久に氷の中で眠るがいい」

そういつてコルドも迫っていたシアゴーストに向けてスノウセイバーを振るう。

しかし3人は気付いていなかった。

自分達が戦っている戦場の中に、小さな赤い宝石が転がり落ちていくことに

プロローグ1 三人の仮面ライダー（後書き）

はい。というわけで二つ目のプロローグでした。

ちなみにオリライダーのコルドの名前の由来はC O L D（冷たい・冷酷）から来ています。

詳細は次のプロローグが終わったらキャラ設定を載せますので、そこに書きます。

では感想などをお待ちしています。

プロローグ2 異世界（前書き）

プロローグ2 投稿しました。

ちなみに何故ペンギンをモデルにしたかというところ、それしかいいデザインが思い浮かばなかったからですw

プロローグ2 異世界

アビスとコルドがシアゴーストの大群と対峙する中、王蛇も乱入し、戦いはさらに激化していく。

王蛇「ハッハアー!!」

王蛇はベノサーベルを振るい、シアゴーストを次々と吹き飛ばし、なぎ倒していく。

アビス「うわぁ、あの虫共が次々と・・・まあ、奴が数を減らしてくれるなら都合が良いな」

アビスもアビスセイバーを振るい、迫り来るシアゴーストを一体ずつ確実に倒していく。

コルドもまたスノウセイバーで、襲い掛かるシアゴーストを問題なく片付けていく。

3人が戦っているうちに、シアゴーストも30体近くはいたのだが、いつの間にか後5体ほどに減っていた。

王蛇も痺れを切らしたのか、ベノサーベルを一旦投げ捨て、カードデッキからカード一枚抜き、ベノバイザーに装填する。

《FINAL VENT》

が出現した。

スノウフェザードは残っているシアゴーストに向けて口から冷凍光線を放ち、それに当たったシアゴーストたちは瞬時に凍り付いてしまふ。

コルド「てやつ！」

コルドは一旦捨てたスノウセイバーを再び手に持ち、地面を仰向けになりながら滑ってくるスノウフェザードの背中に飛び乗る。

そしてコルドはそのまま凍ったシアゴーストたちの傍を通りながら、スノウセイバーで次々と一刀両断していく。これがコルドの必殺技“フローズンスライサー”である。

凍ったシアゴーストたちは身動きを取ることなく、スノウセイバーの餌食となり爆発していった。

アビス「やっと片付いたか・・・」

アビスはシアゴーストたちが全滅したことを確認すると、その場を立ち去ろうとする。

しかし・・・

王蛇「オラアッ！！」

アビス「ッ!？」

突然王蛇がベノサーベル振るって襲い掛かってきた。

アビスは王蛇の攻撃をアビスセイバーで受け止める。

アビス「祭りはまだ終わってないってか？浅倉^{あさくら}」

王蛇「まだイライラが納まらねんだ・・・少しは俺を楽しませろよ、二宮^{にのみや}」

そういつと王蛇は、アビスを無理やりなぎ倒す。

そしてアビスに向かってベノサーベルを振り下ろそうとするが・・・

アビス「図に乗るなっ!!!」

王蛇「ぐおっ!？」

アビスバイザーから水の衝撃波が発射され、王蛇は怯む。

その隙にアビスは素早く起き上がり、王蛇から離れるが・・・

コルド「ハアッ!！」

アビス「ぐあっ!？」

突然アビスの背中に何かで切りつけられたような激痛が走る。

振り返るとスノウセイバーを手にしながらコルドが対峙していた。

アビス「ちい、大野木おおのぎい……!!」

コルド「私も、このままサヨナラするつもりはありませんよ?」

アビスは体勢を立て直し、コルドを仮面越しから睨み付ける。

王蛇も同じく体勢を立て直し、再び構える。

王蛇「ハツハア……そうだ、それでいい。そうでないと面白くない……!!」

アビス「はあく、こっちは大迷惑なんだがなあ……」

コルド「よく無駄口をほざいてる余裕がありますね……」

3人は構える。

そして再び駆け出したその時……

キイイイイン……

3人「「「!?!?!」」」

突然謎の音が響き渡る。

3人は音のした方向へ振り返る。

そこにはあの小さな赤い宝石があった。しかし何故か点滅している。

そして急に宝石が光りだした。

アビス「なっ
」

王蛇「うおっ
」

コルド「くっ
」

数分後・・・

その場所には誰もいなくなっていた。

アビスも、王蛇も、コルドも、あの赤い宝石も、みんな姿を消して

いた

アビス「ん？」

アビスは目を覚まし、起き上がる。その隣には王蛇とコルドも倒れていた。

3人は今、どこかの工場跡地みたいなところにいた。

アビス「どこだ、ここ・・・？」

アビスはVバックルからカードデッキを抜き取って変身を解除し、にのみやえいすけ二宮鋭介の姿に戻った。

二宮「確か俺たち、廃ビルの中で戦っていたよな・・・」

二宮は外に出てみる。

それと同時に二宮は呆気に取られた。外には高層ビルがたくさん並んでおり、明らかに自分たちのいた平凡な町とは違っていたからだ。

二宮「・・・どうなってんだ？」

二宮は何故自分達がここにいるのか理解できなかった。

自分はさっきまでミラーワールドで王蛇、コルドと戦っていたはず

なのだが、突然そこらに落ちていた赤い宝石が光りだしたと思っただら、いつの間にかここにいたのだ。しかも自分達がいたミラーワールド内の廃ビルで、工場跡地ではない。不思議に思うのは当然だろう。

二宮「ん？」

二宮は足元にあの赤い宝石が落ちていることに気付き、拾い上げる。

二宮「まさかとは思うが・・・これの所為か？」

二宮が不思議に思っている間にコルドと王蛇も起き上がった。

王蛇「あ・・・？どこだ、ここは」

コルド「現実の世界・・・ではないようですね」

王蛇もコルドも不思議そうに周りを見渡している。そして二宮がいることに気付く。

コルド「二宮、ここはどこですか？私達はミラーワールドにいたんじゃないかったんですか？」

二宮「さあな。俺だつてわかんねえよ」

二宮がそう言い返すと王蛇とコルドはその場から立ち上がり、Vバツクルからデツキを抜き取って変身を解除し、あさくらたけし浅倉威とおおのぎかずお大野木一雄の姿に戻った。

大野木「まったく、今日は本当に不愉快な日ですねえ・・・」

二宮「それは俺だつて一緒だつての」

浅倉「お前らをつぶせば、少しはイライラが収まるかもしれないなあ……」

二宮「お前のイライラを俺たちに押し付けんな」

大野木「確かにそれはいい考えかもしれませんが」

二宮「お前もかい……」

言い合っている中、大野木は二宮の持つ赤い宝石に気が付く。

大野木「……その赤い宝石はなんですか？」

二宮「あ？ああ、今ここで拾ったんだが、どうやら俺たちはこいつの所為でこの場所にいるみたいだぜ」

大野木「はあ？そんな宝石の所為で？……もう少しマシな考えは……」

大野木が呆れ返るような言い方で話していると……

キイイイイン……キイイイイン……

3人「「「!!!」」」

突然頭に響く金切り音。それはつまり・・・

二宮「モンスターか・・・」

浅倉「ちょうどいい、イライラが解消できそうだ」

大野木「こんな見知らぬ場所にもいるんですね」

3人は近くの窓ガラスの前まで移動し、自身のカードデッキを突き出す。

すると3人の腰にVバックルが出現する。

そして変身ポーズを取り、あの台詞を叫ぶ。

3人「「「変身!!!」」」

カードデッキをVバックルにはめ込み、二宮はアビス、浅倉は王蛇、大野木はコルドに変身した。

アビスは左手のアビスバイザーを2回撫で、王蛇は首の骨をゴキゴキと鳴らし、コルドはスノウバイザーをくるくると持ち回す。

王蛇「さあて、いくか・・・」

アビス「面倒だが、行くしかないか」

コルド「邪魔になるような真似はしないでくださいよ、お二人さん」

3人は窓ガラスに近づき、ミラーワールドに突入した。

プロローグ2 異世界（後書き）

コルドの変身ポーズですが、単純に腕をクロスした形のつもりです。
よければ想像してみてください。

では感想お待ちしております。

キャラ+ライダー設定(前書き)

プロローグ1でも予告していた通り、キャラとライダーの設定です。

二宮の設定も載せようと思ったんですが、二宮のキャラ設定は月光丸さんの方にもう記載されてるので、大野木だけにしておきます。

キャラ+ライダー設定

大野木一雄おののぎかずお / 仮面ライダーコルド

性別：男

年齢：38

髪型：黒髪の長めなミディアムショート

好き：アイス、ケーキ（どちらも種類問わず）

嫌い：クズな人間（犯罪者、ヤンキーなど）

願い：死んだ家族の蘇生

詳細：仮面ライダーコルドとして戦う男性。3人のライダーの中では最年長。職業は医者で、二宮たちの在住している町の病院に勤務している。学生の頃から武術に興味があり、医者となった後もトレーニングを日々行っている。そのため二宮や浅倉とかなり腕は立つ。以前は妻と娘の3人暮らしでそれなりに幸せな暮らしを送っていたのだが、突然訪れた家族の死が原因で悲しみに暮れていた時に神崎士郎と出会い、ライダーになることを決意。家族を生き返らせるためにはどんな卑劣な手段も使っても戦いに生き残ろうとしている。だが医者という職業上、二宮たちと違って人の命を助けるという使命はライダーになっても守っている。なのでヤンキーや犯罪者といったクズな人間を主にモンスターの餌としている。仮に悪人を治療しても、隙を見てモンスターに襲わされている。それでも自分の願い達成にとって邪魔になりそうな相手は人間であってもライダーであ

つても全く容赦しない。時と場合によっては善人を餌にすることも。コルドに変身した際はスノウバイザーを回転させる癖があり、敵を倒したり殺したりする場合は“凍れ”、“永年に眠れ”と口走る。二宮と同じく現在一人暮らし。レリックによる次元転移で同じライダーである二宮、浅倉とともにミッドチルダに漂流する。

仮面ライダーコルド

大野木一雄が変身する仮面ライダー。ペンギンのモンスターと契約している。カードデッキは群青色。顔の部分はペンギンの頭、肩のパーツは翼、胸部の鎧は胴体と足をイメージさせた意匠を持っている。それ以外はアビスや王蛇と同じスペックを保っている他、実力も2人と同等なレベルを誇る。

手に持つ大きな槍型の召喚機“スノウバイザー”にカードを装填することで、各カードの持つ力を駆使することができる他、武器そのものとしても有効に使うことも可能。ちなみにカードを装填させる場所は槍の下のほうに装備されてある。

スノウフェザー

コルドが契約したペンギン型のミラーモンスター。召喚する時は霧が立ち、その中から出現する。基本仰向けになって滑りながら移動する。氷のない場所でも、まるで氷の上を滑っているかのように素早く動きまわることができる。ただし二足歩行による移動はあまり早くない。両腕には鋭利な刃物が装備されており、口からは冷凍光

線や氷の塊を発射することができる。アドベントでは、立ちながら敵に向けて冷凍光線を放つ。

嘴が鋭く、コンクリートにも容易く穴を開けてしまう。人間を襲う際はその嘴で体を貫いて命を奪い、捕食する。

AP5000。

ソードベント

スノウフェザードの両腕を模した大剣“スノウセイバー”を2本召喚する。かなりの大きさだが、コルドは軽々と操っている。

AP3000。

ストライクベント

コルドの頭部の形をした武器“スノウクロー”を召喚する。左手に装備し、発射口から鋭利に尖った氷の塊を勢いよく飛ばす。アビスと同じく攻撃は単体で行う。

AP3000。

ファイナルベント

止めを刺すときに使用するカード。スノウフェザードが冷凍光線を放ち、相手を凍らせる。その後コルドがスノウフェザードの背中に飛び乗り、スノウセイバーで凍った相手を一刀両断する“フローズ

ンスライサー”を発動する。
AP5000。

ストーリーが進み次第、更新する予定です。

キャラ＋ライダー設定（後書き）

コルドのイメージ図がはつきりしなくてすみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2956ba/>

魔法少女リリカルなのはStrikerS ~ 3人の最凶 ~

2012年1月9日23時52分発行